

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270200399
法人名	社会福祉法人 光の子福祉会
事業所名	グループホーム 光の子
訪問調査日	平成 21 年 2 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 15 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270200399		
法人名	社会福祉法人 光の子福祉会		
事業所名	グループホーム 光の子		
所在地 (電話番号)	佐世保市上原町749-1 (電話) 0956-39-3231		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価結果報告日	4月21日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 6.4 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>		<u>新築</u> / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての		階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	6,500 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2		1 名	
要介護3		4 名	要介護4		3 名	
要介護5		1 名	要支援2		2 名	
年齢	平均	88.4 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梶田医院、吉田歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要幹線道路より上った山あいの傾斜を利用した斜面に立地し、ケアハウスや小規模多機能施設も併設した、総合的な介護サービス施設の一角に建つこのホームは、法人全体で利用者サービスの質の向上に努め、地域に開かれた施設づくりに取り組んでいる。玄関を入ると少し高めの天井にシャンデリアが取り付けられ、中庭から入る日差しは自然光で全体に明るく、その中庭を取り囲むような回廊に居室が配置され、各居室には大きな掃き出し窓と、洗面所つきのトイレが設置され、利用者のプライバシーを配慮した法人の、利用者一人一人の生活空間を大切に作る姿勢が伺える。入居者はケアハウスの入居者とも、田畑の作業や行事、お茶会などを通して、日頃より交流し幅広い社会生活が確保できている。また、管理者と職員が一丸となって支援にあたり、利用者を尊厳し、個性を活かした家庭的な雰囲気ของกลุ่มホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善計画シートはないが、外部評価の報告に対して改善への取り組みを話し合い、実践に結びつく検討がなされている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は評価の意義を十分に理解し、一部の職員だけではなく、全スタッフに自己評価を記入してもらい、各職員の認識を新たにすることを図り、記入後はリーダー会議で話し合い、目指すところの再確認を行っている。また外部評価の結果をもとに、ミーティングで検討し改善へ向けたさらなるサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、3~4ヶ月毎に開催され、議事録も残されている。会を重ねるごとに、委員の意見が出るようになり、出された意見に対しては忠実に受け止め、今後の運営に役立たせようと検討している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会者も多く、調査日にも花を持って来てくれた方がおり、職員もすぐ飾るなど快い受入れの態度は、家族の意見の収集にも結び付いている。意見や苦情・その他、注意すべき点はすぐに検討し、すみやかに対応を行うことを施設長自ら心がけていて、職員へも周知徹底を行っている。また記録も残されている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 立地環境から、隣家とは100mは離れていて日常的なかかわりは少ないが、昨年ホーム主催のバザー収益金を、周囲の3地区に寄付したことにより、地域への意識付けが行われている。地元の方にも、運営推進会議に参加してもらい、学校の職場体験等の受け入れも行われている。職員がホーム周辺に住んでおり、訪問ボランティア等への声かけができ、また一番の近所であるケアハウスの入居者との交流は盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人は35年の実績があり、地域の中で根づいたものになっており、昨年は小規模多機能施設を立ち上げ、地域密着型サービスのさらなる実践を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所内に提示し、ミーティングの時に唱和している。管理者も日々、ホームに足を運び職員や利用者の状況の把握に努め、ともに実現に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年度は地域でバザーを開催し、地域の方からの協力を得て大盛況であった。収益金全部を法人の周囲3地区に寄付し、地元地域への存在の意識づけを確実にしている。運営推進委員には地元の方にも協力を得ている。地域の学校の体験学習の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、記入することで自分自身の見直しになり、気をつけるべき点の振り返りになっている。記入後はリーダー会議で話し合いを行い、目標の再認識を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねるごとに、ホームへの理解も高まり、一方的に報告するだけでなく委員からの意見も出てくるようになった。ケア運営についても地域ぐるみでの取り組みなど具体的な意見も出てきており、実行に結び付く一歩となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員を担ってもらっているほか、保健師が中心となり開催される研修会には積極的に参加し、受託事業についても受ける姿勢である。また、地域包括支援センターとも連携をとっている。教育委員会からの教員の体験研修も受け入れ、協力体制を心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真つきのホームだよりを作成し、各利用者ごとに担当職員が一言を添え家族へ送付し、行事や催しものの案内等も行っている。金銭管理も各自の出納帳で管理し、入金時は家族が記入している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時には、利用者の様子を報告し、随時意見を聞くようにしている。相談や意見が出しやすい関係づくりを心がけており、出された意見に対しては、職員間・施設長を交えるなど状況に応じた対応がなされている。意見箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族が来たときには新しい職員の紹介を随時行っているほか、ホームだよりでの紹介や利用者にはその前で紹介を行っている。法人内の異動は行っているが、大異動にならないように配慮し管理者は日常的に職員の仕事ぶりを確認し、適材適所を考慮した最小限の異動を心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には2週間ほど、教育係がついて指導し、特に夜勤時には職員の状況に合わせて夜勤同行の回数を設定し、慣れるように配慮している。県老協協の研修等へ出張命令として職員を参加させたり、その他市内である研修会等には、各自の希望で休みを優先したりする配慮がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体で老協協に入会し、老協協で行われる研修会に参加したり、希望すれば他ホームとの交流の機会を持つような配慮はある。法人内の職員同士の交流は盛んで、2か月に1回の利用者をお茶会の日には、夕方からは職員の交流会も開かれ、関係づくりを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開所時は隣接のケアハウスからの入居者が多く、馴染みの関係づくりがスムーズに行われており、利用者も大きな混乱はなく、過ごしている。最近利用を始めた利用者については、ケアマネジャーを通じて情報を交換し、利用希望者は実際ホームを利用してもらい納得してから利用を開始し慣れてもらうよう個別にきめ細かなケアを図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が子どもを連れてきて、子守りを通して笑顔を引き出したり、昔の様子を話し合い、昔からの言い伝えや、食事の味や漬物づくり等学ぶことも多く、利用者の方に励まされたりして、お互いが家族の一員のように支え合いながら暮らしを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意見を十分に聞く機会を持ち、行事に反映したり表現が困難な方には、表情で読みとりを行ったりしている。また、利用者の行動ひとつひとつに目的・意味があるものと理解し、どう答え支援していくかの検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のケア会議では、全職員で意見交換を行い、利用者のモニタリングと計画作成が行われている。モニタリングの対象でない方に関しても状況の変化に応じて、ケア会議において利用者の状態に合わせた支援を行うために検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	面会時に声をかけ、状況報告と合わせて介護に関しての意見の収集や、介護計画に関する説明を行い同意を得ている。3ヶ月毎のモニタリングを行っているほか毎月開催されるケア会議では、必要な方を見直しも行われている。急な変更が必要な場合については、毎日行われているミーティングで意思統一を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的には家族が同行しているが、家族の状況や状態によっては職員が柔軟に対応することを心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来より利用していたかかりつけ医が、利用者にとっても安心であることを理解し、利用者の意思を尊重している。家族や利用者から変更の申し出がある際は、協力医に依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでホームでの看取りを行ってはいないが、入院後数日で亡くなった方もいる。ホームとしては家族と利用者が医療ケアではなく生活ケアを重視することを選択される際には受け入れる姿勢は持っているが、刻々と変化する家族等の思いも尊重して、十分なコミュニケーションを図りながら対応を考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の保管は事務所で行っている。各居室にトイレ・洗面所を設置しているので、排泄・洗面に関しては居室で対応がなされ、法人全体でプライバシーの確保に力を注いでいることが伺える。難聴気味の方には、耳元で話しかけるなど、職員も言葉かけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程はあっても、その日の利用者の状況で時間がずれたりすることは日常的で、それぞれのペースで食事の時間がとられ、朝が苦手な方には、遅めに朝食を出すなどの支援をしたり、外出等についても強制することではなく、一人ひとりのペースや状況に合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も一緒に台所で下ごしらえをしたり、職員は朝・夕同じメニューを食べながら、食事の支援をさりげなく行っている。時間をかけても、一人ひとりが自分で食べるような余裕を持つ配慮を行っている。行事に合わせたメニュー設定や演出も行われ、食べる早さや量で好みを確認したりして、メニューを決める際の目安にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の午後に入浴日を設定しているが、利用者の状況によっては清拭を行ったり、入浴日ではない日にも入浴を支援したり、毎日足浴が必要な方には、足浴を行い薬の塗布をしたり、状況に応じた個別の対応を行っている。たまにケアハウスの天然温泉に出かけることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日犬を連れてきて、動物との交流を図ったり、法人全体で田畑を持っていて、ケアハウスの住人と一緒に田畑耕作に参加したり、洗濯物を干したりたたんだり、食事の下ごしらえなども行っているほか、2ヶ月に1回実施されているケアハウスとのお茶会に出向いている。しきたりに応じた行事も計画し、食事や装飾などが楽しめる雰囲気づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物は、交代で利用者を誘い買い物に出かけている。中庭から差し込む日差しは居ながらにして、外との交流が味わえるが、穏やかな気候の日を選び、玄関外での外気浴も楽しんでいる。行事としての外出も、地域の茶市や花見、運動会など戸外に出る機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	AM6:00~PM21:00は鍵は開放している。玄関から入った開きドアの所に鈴を設置し、中ドアで出入りの確認をしている。各居室も掃きだし窓で、出入りは自由な状態であるが、職員の見守りを充実させて対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は法人全体で設定して行い、年2回定期的に開催している。スプリンクラーも整備され、ハード面での対応にも配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設ホームの管理栄養士に作成した1週間分の献立を確認してもらい、多くの食材を取り入れ、利用者の嚥下・咀嚼力に合わせた食事形態への配慮を行っている。食事の摂取量も記録を残し、水分の摂取は当然のこととして対応し、熱発時には普段より飲用するよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMが流れ、中庭からは自然採光が入り、室内にいて外の季節感を十分に味わえる。また、お雛様を飾ったり、家族からの季節の花の差し入れをさりげなく飾り、台所と隣り合わせの居間には、おいしそうなおいが漂い日常的生活があふれている。オゾン消臭機器を設置し、夜間は特に台所を間仕切りし、消毒に努めていて清潔感に十分な配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベットと寝具、靴箱はホームからの提供だが、自前の毛布、ダンスやソファーを持参したり、思い出の家族との写真や手作りの品、観葉植物などを飾り、自宅での暮らしがホームでも自立して継続できるよう、ポータブルトイレが置かれたり、畳の間があったり、自室で快適に過ごせる空間になっている。		